

【タイトル】 「学名から迫る植物の素顔」 in 小石川植物園

【実施日】 2020年11月6日(金) 9:30~12:30

【開催場所】 小石川植物園

【参加者】 12名

【講師】 横山 茂 (FIT)

【スタッフ】 高橋 喜蔵

【報告者】 嶋田 佳代

【本文】

小石川植物園正門内に午前9時30分集合 参加者の顔が揃ったところで自己紹介  
ほぼ全員が学名とは“はじめまして!”の状態でした。

さてさて出発!! まずは、正門横の“ケンボナシ”学名は“*Hovenia dulcis* Thunb.”  
ラテン語で表記されるそう(そうなんだあ!)。ラテン語は現在一般に使われていない言語  
で大きな変化が無いことから学名に使用され世界共通の学術公用語となっている。

ケンボナシの学名、最初の *Hovenia* は属名 次の *dulcis* は種形容語 最後の *Thunb.* は  
命名者の名前でラテン語の文法に則って表されている。

種名は属名+種形容語で構成され、この表し方を二名法といいリンネにより体系化された。

(さて、ここまでは大丈夫・・・) 植物観察も忘れずに! ケンボナシの実が付いていない  
時の葉での見分け方など学名と植物観察を織り交ぜつつシナウリノキ・アンズ・スイフ  
ヨウ・ソテツ・フクロミモクゲンジ=オオモクゲンジ・ジュラシクツリー・ヒサカキサザ  
ンカ・ヒマラヤスギ・ヒノキ・ヤブデマリ・フユサンゴ・アマチャと進んでゆくとだんだん  
に長い学名が出てくる。これは、種の中に亜種や変種等が現れたため亜種には *ssp.* 変種に  
は *var.* 品種には *f.* 雑種には  $\times$  (乗法記号) 園芸品種は‘園芸品種名’と一重の引用符で  
括弧(以前は *cv.*) 事とし種名以下に記すようになったためだ。

なお、亜種や変種の無かった種に新たにそれらが作られた場合、元になった種には、種形容  
語の後ろに基本亜種(変種)を示す亜種名(変種名)としてもとの種形容語が繰り返される。

これは新亜種(変種)の記載によって自動的に生じるものであり自動名という。

わーなかなかややこしい!! 初心に立ち返ろう!

学名は世界共通の学術公用語! 属名+種形容語=二名法で構成される。属名が同じという  
ことは、花や葉が似ているということ。単に和名や科名を覚えるだけでなく学名を知ること  
で更なる楽しさを得ることが出来る。

朝の天気予報に反して肌寒い日だったが、インストラクターとしての引出しの中はちょ  
っぴり暖かくなった。ありがとうございました!!



ケンポナシ *Hovenia dulcis* Thunb\_の説明



ケンポナシの樹名板



ケンポナシ *Hovenia dulcis* Thunb\_



学名解説風景